

第3章 研究ノート・提言

多様性に関する現状と課題 ～ 2021 五輪東京大会とドラマ等における多様性～

大西孝志¹⁾²⁾

2021年（令和3年）、新型コロナウイルス感染症で延期となっていた、東京オリンピック・パラリンピック大会が執り行われた。「多様性と調和」というテーマがこれまで以上に高らかに掲げられた大会であった。しかし、直前になっても、その理念に相反したトラブルが続発し、「五輪開会式迷走、響かない理念」といった報道が多く見られた。これらの出来事によって、我が国には、多様性と調和、マイノリティ、ダイバーシティ、ジェンダー平等といった考え方の本質が、まだ十分には浸透していないということを広く知らせることとなった。

一方、近年は多様性をテーマとしたドラマ作品、映画、漫画が数多く見られる。さらに、ジェンダー等についての従前からの慣例を変更するという取組が次々と発表されている。筆者はこれらを素材として学生に特別支援教育や、多様性尊重の考え方を説明している。特に新入生や教育学部以外の学生にとっては、「説明されて初めて多様性の視点があることが分かった」「（ドラマを）一人で見ている時にはマイノリティがテーマになっていると思っていなかった」「気付かずに視聴していた」といった者がかなりの割合でおり、多様性尊重の視点を伝える大切さを感じている。

本稿では、東京オリンピック・パラリンピック大会に関係する多様性に関係した出来事及び、近年、多様性（特別支援教育・障害、LGBT等）に関する事柄がテレビ作品等の中でのように取り上げられてきたのかについて整理し、それらがもたらした成果について言及する。

キーワード：多様性、特別支援教育、障害、LGBT、ドラマ、映画

1. オリンピック・パラリンピック東京大会

2021年（令和3年）パラリンピック東京大会では、障害を有するアスリートたちが素晴らしいプレーを発揮した。また、パラリンピック競技の放送時間は過去最高の500時間を超え、これまで一般的ではなかったパラスポーツの普及に一役をかった。さらに、障害当事者

1) 東北福祉大学教育学部教育学科

2) 東北福祉大学教育・教職センター特別支援教育研究室

が競技の取材、番組製作に携わるなど、大会の機運を高める様々な取組が行われ、「多様性と調和」の理念を追求するという大会の目的に近づく努力が積み重ねられた。

一方、東京大会の開催を巡っては、「多様性と調和」の理念に反する問題が数多く発生した。以下、それらを時系列に拾ってみる。

(1) 女性蔑視発言

2021（令和3年）2月3日に開かれた日本オリンピック委員会（JOC）の臨時評議会で、最高責任者である会長が「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」などと、時代にそぐわない失言をし、ジェンダーの視点が抜けていると大きな問題となった。翌日、発言の撤回及び謝罪が行われたが、9日後には辞任することになった。

このことについて、新聞は以下のような取り上げ方をしている。

女性の存在をおとしめ、五輪のイメージを失墜させた責任の重さを考えれば当然であり、遅きに失したと言わざるをえない（『朝日新聞』2021.2.13朝刊）。

海外報道「五輪イメージ悪化」「女性を排除」開催危ぶむ声も（『毎日新聞』2021.2.12朝刊）。

日本がジェンダーギャップ指数で世界121位という不名誉な数字と共に広まった（『朝日新聞』2021.2.20朝刊 多事奏論）。

(2) 女性タレントへの侮辱発言

東京オリンピック・パラリンピックの開・閉会式の演出を総括するディレクターが、開会式に出席予定であった女性タレントの容姿を侮辱する発言を演出チームのメンバーに送信していたことが3月17日に報じられた。本人が、翌18日大会組織委員会を通じて謝罪のコメントを出すとともに、大会組織委員長に辞任を申し出て、退任に至った。

このことについて、新聞は以下のような取り上げ方をしている。

「女性容姿侮辱の演出提案」（『朝日新聞』2021.3.18朝刊）、組織委員会の橋本会長はこの日、記者会見で「不適切であり、大変遺憾。組織委員会がジェンダー平等の推進を重要施策として掲げている以上、辞意を受け入れることとした。」「女性蔑視発言で辞任した前会長から引き継いで約1か月聖火リレーで大会機運を盛り上げようとしてきた橋本新体制に新たな不祥事が水を差した。」（『朝日新聞』2021.3.19朝刊）

(3) 聖火リレー、愛知に男性限定区間

愛知県半田市で行われる聖火リレーにおいて走者が男性に限られる区間があることが問題となった。当初は、江戸時代から続く地域の祭りにおいて、神社の池を小舟に乗って聖火を

つなぎ、その区間は男性ランナー限定という計画だったのである。

このことについて、新聞は以下のような取り上げ方をしている。

実行委員会は、舟に乗る警察官、報道関係者もすべて男性。県に提案する際には、舟が伝統的に女人禁制であることを伝えていた。市の担当者は新聞社の取材に、五輪精神にそぐわないところがあるかもしれないが、祭りとはそういうものである。歴史と伝統文化か、最新の常識かの問題であると説明し、大きな問題になるとは思っていなかったようである。また、県の実行委員会の担当者は、地元の魅力を発信したいと言う市の意見を尊重した。相撲などと同じ伝統なので、特段問題にはならず承認したと説明している（『毎日新聞』2022.4.2朝刊）。

しかし、新聞報道や世論を受け、翌日には聖火リレーを祭りではなく、イベントとして実施することとし、女人禁制を撤回することになった。

このことについて、明治大学の高峰治教授は「五輪の基本的なコンセプトである、ジェンダー平等の精神について勉強不足で、全く理解していない。批判を受けたことで、「祭礼」ではなく「イベント」として女性の乗船を認めるという方向転換は、この問題について全く議論できていなかったということになる。五輪を行うことで、多様性やジェンダー平等について学ぶことが出来ないのであればそもそも開催する意味はないのではないか。」と強く批判している（『朝日新聞』2021.4.3朝刊）。

(4) 過去に行っていた障害者いじめ

開会式の作曲の担当者が、過去に同級生や障害者をいじめていた経験をインタビューで語っていた問題についての謝罪文を自身のツイッターに掲載した。開会式を一週間後に控えた7月16日のことであった。

同日夜、組織委員会は本人が反省していること、現在は高い倫理観をもって創作活動を行っているとして、続投させる意向を示したものの、障害者団体が強く説明を要求したことや海外メディアがこの問題を大きく取り上げたことなど世論に押される形で、本人が辞任を申し出た。

このことについて、新聞は以下のような取り上げ方をしている。

大会組織委員会の事務総長が「先日、引き続き準備に務めていただくと表明したが、これは誤った判断であると考えてに至った」と発表するに至った（『朝日新聞』2021.7.17 7.20朝刊）。

(5) ホロスコート（ユダヤ人大量虐殺）を扱ったコント

東京オリンピック開会式前日、過去にホロスコート（ユダヤ人大量虐殺）を揶揄するコン

トを行っていたことが問題になった式典の全体調整役を務めるディレクターが解任された。氏は3月に女性の容姿を侮辱したことにより退任となった総括ディレクターの後を受けて、オリンピック、パラリンピック開・閉会式の担当を引き継いでいた人物であった。

大会事務局は、これまでの対応の中では最も早く、解任という重い処分をとった。

このことについて、新聞では、これまでの一連の辞任・解任劇について識者による特集が組まれた。

(6) 開会式式典出場辞退

開会式に出演することになっていた俳優が、1985年に発売したビデオの中で、白杖を振り回して笑いをとる演出があり、当時、障害者団体から批判を受け、謝罪していた。これまで続いた辞任劇を踏まえ、本人が出演して混乱を招くことは本意ではないことを理由に、開会式前日に出演を辞退していたことが明らかになった。

(7) オリンピック開会式の手話通訳

オリンピックの開会式では無観客で開催されている国立競技場のスクリーンに手話通訳が付けられていたものの、テレビ放送の情報保障は字幕のみであった。聴覚障害者の団体から「字幕だけではタイムラグがあるので面白さ半減」等の苦情や全日本ろうあ連盟からの強い指摘を受け、局の対応は一変し、オリンピックの開会式及びパラリンピックの開・閉会式ではテレビ放送に手話通訳がつけられることになった。

NHK側は「開会式の映像はIOCの関連組織である五輪放送サービス（OBS）が作成しており、その映像をそのまま使ったため手話通訳をつけなかった」「長時間の生放送のため手話通訳を付けるのが困難」「手話の映像で画面が見にくくなる」と説明した（『毎日新聞』2021.8.7朝刊）。

しかし、韓国、カナダ、台湾等のテレビには、オリンピック開会式に自国の手話通訳がついており、技術的には決して無理な作業を伴うことではなかった。

手話通訳については、3月の聖火リレー出発式でも同じような問題があり、首相、橋本五輪大臣が「配慮に欠けていた」等と国会で答弁していたが、開会式ではそれが生かされない形となった。

これら一連の事件は、比較的マスコミ等で大きく報道されたものである。おそらく、このほかにも、多様性を認めない、共生社会が理解できていないような事案がたくさんあったのではないかと推察される。

オリンピック・パラリンピック大会は「多様性と調和」を高く掲げ、パラリンピック大会

開会式においては「# We The15」（障害者は人口の15%）という、世界各国の障害のある人が活躍している様子を編集した映像が流されたことは記憶に新しい。

We The 15

国際パラリンピック委員会（IPC）は、東京パラリンピックを契機に、世界人口の15%に当たる約12億人の障害者の人権を守る新たなキャンペーン「We The 15」を開始すると発表した。今後10年間の長期的な活動で、複数の国際機関と連携し、東京大会の理念でもある「共生社会」の実現を目指す。社会の人々の障害者への意識を変え、世界中の障害者への偏見や差別をなくすための試みとして、国際パラリンピック委員会をはじめとする障害者スポーツを推進する団体や障害者の権利を擁護する団体等によって企画されたキャンペーン。

今回のオリンピック・パラリンピック東京大会を巡って何故これらの不手際が起きたのであろうか。共生社会の形成、インクルージョン、多様性の尊重などは、大切ではあるが自分とは関係のないことという受け止めをしている人がまだ多くいるからではないかと思う。

現在、総理大臣、官房長官、自治体の首長の会見にも手話通訳が配置されるということが珍しくなくなった。開会式の中継に手話通訳を配置するというような、誰でもが思いつくようなことが、チェックされていなかったことは驚きであった。

おそらく、自分事ではない、誰かが用意しているという甘さがあったのかもしれない。私たちは、合理的配慮等を必要としている人が身の回りには必ず存在しているという視点を頭のどこかに置いておかねばならないと思う。

2. テレビドラマ、映画における多様性

(1) LGBT（性同一性障害）を扱ったテレビドラマ

オリンピック・パラリンピック大会を巡っては、上記のように残念な事案が続いたが、最近のテレビドラマや映画などにおいては、特別支援教育（障害）、性的マイノリティが作品の中で取り上げられており、中にはそれが主題となっているものがある。

平成30年7月、国会議員が、雑誌に「LGBTの人たちは生産性がない」という文章を寄稿し、それが大きな話題になった。氏はその数年前から同様の意見を述べており、同僚議員からの批判がある中、発言を訂正することはなかった。

世の中が、表1のように、スラックス、スカート両方を選択できる制服導入、公立高校の願書性別欄廃止、女子大学における戸籍上の男性の入学許可、教科書におけるジェンダーを

扱った教材の急増など、多様性を認める社会に向けて舵を切っているのに対して同議員の発言は明らかに逆行していると思われる。

表1 多様性に関する動き

- 非スカートOK 女子のスラックスは「動きやすい」「冬の寒さ対策に」「性の多様性に配慮して」と言った理由で広がっており、もはや男子＝ズボン、女子＝スカートという時代ではないようだ。制服がそれぞれの時代を反映するものならば、今の制服は何を写しているのだろうか？（『読売新聞教育ネットワーク』2021.5.15）。
- 性別欄廃止41道府県 20年度公立校入試願書で
2020年度に実施された都道府県公立高校の入試で41道府県の教育委員会が入学願書に性別欄を設けなかったことが毎日新聞の取材で明らかになった。残る6都県教委の内千葉、東京を除く4県教委も21年度から廃止する方針で、心と体の性が一致しないトランスジェンダーなど性的少数者への配慮が高校入試でも進んでいる（『毎日新聞』2021.7.16朝刊）。
- 女子大で戸籍上は男性でも性自認は女性のトランスジェンダー学生の受け入れが広がってきた。性的少数者の学ぶ機会を保障するねらいだ（『日本経済新聞』2021.9.1朝刊）。
- 数年前、LGBTの人々に対して支援するに値しないという発言をめぐって広く批判が起こった。私も、LGBTの存在を覆い隠し続けることで、ここの人々と社会の多様な接点を希薄にさせ、文化や経済など、未来に向かう大きな活力となることをそがせてしまうのはもったいないと反論した。その中で当事者の一人と告げたことが報道され、メディアで増幅し、元来そのことが主題ではなかったが、性的少数者であることを公表することで、多くのことに気づききっかけとなった（「ここにいる」を言う意味、伝え合う言葉中学国語2）。
- 「本当は男なんだ、男として生きるのがふさわしい。」「いや、女として生きるべきだ。」
私は、常に心と体がばらばらという「性同一性障がい」であった。小さいころから歌うことが大好きだった。（「だから歌い続ける」, 道徳中学校2生き方を見つける）
- 性のあり方は、男・女の二つだけではなく、人の数だけあります。そして、そのあり方を示す「セクシャリティ」という言葉があります。これは性のあり方のことを言い、「からだの性」「こころの性」「好きになる性」の三つの要素があると考えられています。（中略）
こういった人は図②のような「セクシャリティ」を示す人の数に比べると数少ないので、「セクシャル・マイノリティ」（性的マイノリティ／性的少数者）」という言葉で表され、また「LGBT」という言葉で表されることもあります。（中略）セクシャル・マイノリティの人は人口の7.6%いるという調査もありますがこのセクシャリティは見ただけでは分かりません（「自分らしい多様な生き方を共に実現させるためにできること」, 輝け未来中学校道徳2年）。
- 人権教育への配慮
LGBTの人たちが行きやすい社会になってほしいというメッセージを込めたポスター。
（生徒作品「二人で生きる」, 中学校美術2・3年）。



これらの動きに合わせたかのように、平成30年以降、性的マイノリティを取り上げたドラマが、放送されている。また、NHKの「半分、青い。」では難聴とゲイ、「エール」では吃音とゲイ、「古見さんはコミュ症です」では緘黙とジェンダーレスを扱い、番組製作サイドが様々な多様性を強く意識していることが伝わってくる。

表2は平成30年以降に放送されたジェンダーの問題を扱ったテレビ番組である。

「家売るオンナの逆襲」「俺のスカーツ、どこ行った？」などは、番組内で表3のようにLGBTについての解説を演技として登場人物に語らせるシーンがあり、ストーリーを楽しむことに加えて性同一性障害についての理解を深める教養番組としての性質を合わせ有するつくりになっている。

表2 性的マイノリティ (LGBT) を扱ったドラマ

放送月	放送局	番組名	役者	カテゴリー
H30.1月	フジ	「海月姫」	瀬戸康史	女装美男子
H30.1月	NHK	「女子的生活」	志尊淳	トランスジェンダー
H30.1月	フジ	「隣の家族は青く見える」	北村匠海・眞島秀和	男性カップル
H30.3月	NHK	「弟の夫」	把瑠都	ゲイ
H30.4月	朝日	「おっさんずラブ」	田中圭・吉田鋼太郎 眞島秀和・林遣都	男性同士
H30.4月	朝日	「家政夫のミタゾノ」(2)	松岡昌宏	女装
H30.4月	NHK	「半分、青い。」	志尊淳	ゲイ
H30.10月	TBS	「中学聖日記」	吉田羊	バイセクシャル
H31.1月	日本	「家売るオンナの逆襲(3話)」	池田鉄洋	トランスジェンダー
H31.4月	テレ東	「きのう何食べた？」	西島秀俊・内野聖陽	ゲイ
H31.4月	日本	「俺のスカーツ、どこ行った？」	古田新太	ゲイ・女装
H31.4月	朝日	「家政夫のミタゾノ」(3)	松岡昌宏	女装
H31.4月	NHK	「腐女子うっかり、ゲイに告る」	金子大地・谷原章介	ゲイ
R1.11月	朝日	「おっさんずラブ in the sky」	田中圭・吉田鋼太郎	男性同士
R2.3月	NHK	「三浦部長、本日付けで女性になります。」	ムロツヨシ	トランスジェンダー
R2.4月	NHK	「エール」	古川雄大	ゲイ
R2.4月	朝日	「家政夫のミタゾノ」(4)	松岡昌宏	女装
R2.10月	BSテレ東	「ハルとアオのお弁当箱」	井之脇海	ジェンダーレス
R3.1月	TBS	「逃げるは恥だが役に立つガンバレ 人類！新春スペシャル！！」	古田新太・成田凌 西田尚美	男性同士 女性同士
R3.1月	フジ	「教場II(「心眼」)」	高月彩良	女性同士
R3.3月	フジ	「サロガシー」	細田善彦・猪塚健太	男性同士
R3.4月	日本	「カラフラブル」	板垣李光人	ジェンダーレス
R3.4月	TBS	「ドラゴン桜」	山崎 銀之丞	ゲイ
R3.9月	NHK	「古見さんは、コミュ症です。」	ゆうたろう	ジェンダーレス
R3.10月	日本	「恋です！ヤンキー君と白杖ガール」	鈴木伸之	男性同士
R3.10月	フジ	「SUPER RICH」	中村ゆり	同性愛
R4.1月	朝日	「必殺仕事人2022」	西畑大吾	思い人が男
R4.1月	NHK	「恋せぬふたり」	高橋一生 岸井ゆきの	アロマンティック・ アセクシュアル

表3 ドラマの登場人物によるLGBTの説明

<p>「家売るオンナの逆襲」 日本テレビ 平成31年1月29日放送 第三話 主人公 三軒家万智（北川景子）が同僚にLGBTについて説明するシーン。このドラマではL・G・Tが登場した。</p>	
三軒家	「トランスジェンダーとは生まれたときの性と違う性を生きる人、あるいは生きたい人もいます。生まれたときの身体的特徴で判別された性が男性で、男子として育てられたとしてもずっと心の中で自分は女性だと思っている。そういうふうに性別に違和感をもつ人を総称してトランスジェンダーと言います。」
後輩	「それなら、今日のお客様はゲイだったので、トランスジェンダーではないって言うことですね。」
三軒家	「いいえ、誰のことを好きになるかという性的嗜好がマイノリティな男性がゲイであり、自分自身をどう認識するか性の自認がマイノリティなのがトランスジェンダーです。従ってトランスジェンダーの中にもゲイはいます。トランスジェンダーの中には自分の性別が男性か女性か分からない人、曖昧な人、決めたくない人などもあります。」
<p>「俺のスカート、どこ行った？」 日本テレビ 平成31年4月20日放送 第一話 主人公原田ノブオ（古田新太）が初回の授業で生徒らにLGBTの説明をするシーン。</p>	
原田	「オイお前、区別も付いていないお前に説明してやるから、耳の穴かっぼじってよく見とけ」 【 L・G・B・T と大きく板書する 】 『L』はレズビアン。女性の同性愛者のこと。これはゲイの『G』、男性の同性愛者のこと。『B』はバイ・セクシャル。男性も女性も好きになれる人。『T』は……」 （教室内にいた若い教師が・・自信なさげに） 「…トランス…ジェンダー。えーっ 心と体の性別が違う人のことですよ？」
原田	「心の性別って何よ？……。敢えて言えば社会が割り当てた性別とは別の性別で生きる人。私は『G』ゲイ、そして女装もしている。ゲイは性の向き。女装は表現の形。」
<p>「半分、青い。」 NHK 平成30年6月23日放送 第11週 第65話 漫画家のアシスタントのボクテ（志尊淳）が母親の手紙を読み、性的マイノリティの苦しみを表現するシーン。</p>	
母の手紙	「お父さんの病気は長引きそうで、なんとか藤堂呉服店をあなたに継がせたいと思っています。あなたももう大人なんだからいい加減、ゲイとやらも漫画とやらもやめてウチに戻ってきてはいかがでしょうか。着物はあなたも嫌いではない訳ですし、いいお見合いの話もありますよ。」 （漫画家アシスタントのボクテが悲しそうに独り言）
ボクテ	「お母さん。漫画家はやめられても、ゲイはやめられないんだよ。ゲイは職業じゃないからね。」

LGBTを扱った映画は非常に多く、2021年（令和3年）の日本アカデミー賞最優秀賞は性的マイノリティをテーマにした「ミッドナイトスワン」であった。主演は草薙剛、トランスジェンダーの男性が育児放棄にあっていた親戚の少女を育てるうちに母性愛に目覚め、自らを犠牲にして少女の夢のために命を捧げるというストーリーで話題を呼んだ。海外の作品においては邦画以上にLGBTを扱ったものが多い。理由については後述する。

(2) 障害を扱った映画やテレビ

昨年度はパラリンピックがあったことから、映画作品に障害を扱ったものが多数上映され

た。以下、表4は筆者が授業の中で学生に予告編等を視聴させた上で、補足説明をした作品である。

表4 障害を扱った映画

上映 放送	題名	障害種	出演・主な内容	
R2.10月	きみの瞳が問いかけている	視覚障害	横浜流星・吉高由里子	全盲・白杖
R2.11月	水上のフライト	肢体不自由	中条あゆみ	肢体不自由 パラカヌー
R2.11月	10万分の1	病弱	白濱亜嵐・平祐奈	ALS
R2.11月	瞽女	視覚障害	吉本実憂	全盲・弱視
R3.3月	旅立つ息子へ	自閉症	洋画	家族介護 施設
R3.4月	自閉症の僕が飛び跳ねる理由	自閉症	洋画・東田直樹	自閉症の人の 世界の見え方
R3.6月	ヒノマルソウル	聴覚障害	田中圭・山田裕樹	難聴のテスト ジャンパー
R3.10月	サウンド・オブ・メタル ～聞こえるということ～	聴覚障害	洋画	人工内耳
R3.10月	殺人鬼から逃げる夜	聴覚障害	韓国映画	目撃者が難聴
R3.11月	梅切らぬバカ	自閉症	加賀まりこ・塚地武雅	自閉症 地域で暮らす
R4.1月	コーダ あいのうた	聴覚障害	洋画	両親家族が聾 CODA
R4.2月	声もなく	緘黙	韓国映画	言語障害・緘黙

「水上のフライト」はパラカヌー選手である瀬流モニカ氏をモデルにして作られた作品である。

瀬流氏については「夢への挑戦『パラカヌー』」という文章が、教育出版中学道徳1（令和3年版）に掲載されている。

「ヒノマルソウル」はオリンピック長野大会ジャンプ競技のテストジャンパーとして大切な役割を果たした高橋竜二氏をモデルにした作品である。高橋氏は北海道内の聾学校の卒業生であり、筆者は氏が後輩のための講演に来てくださったときに実際にお会いしたことがある。

また、この2年ほどは聴覚障害を扱った映画が目立つ。

「サウンド・オブ・メタル～聞こえるということ～」「殺人鬼から逃げる夜」「コーダ あいのうた」などは、補聴器や、人工内耳を装用したときの聞こえ方、コンサート会場にいる

聾者の何も聞こえない状況の疑似体験が出来、難聴者の日常をイメージするのに有効な作品であった。

表5は、今年度、テレビドラマで扱われた障害である。

表5 障害を扱ったドラマ

R3.4月	おかえりモネ	肢体不自由	車椅子アスリートの競技の支援
R3.4月	ドラゴン桜2	サヴァン 症候群	視覚的記憶能力に長けた生徒の 特性を生かした進学指導
R3.6月	超速パラヒーロー ガンディーン	肢体不自由	戦隊ヒーローもの 主人公が車椅子に乗っている
R3.7月	TOKYO MER 走る緊急救命室	聴覚障害 指文字	入院している聴覚障害児に読み聞かせ エレベーター内で指文字を使い会話
R3.7月	緊急取調室 シーズン4	読話	口形で会話内容を類推する
R3.9月	古見さんは、コミュ症です。	緘黙	コミュニケーションが苦手な筆談での会話
R3.10月	ラジエーションハウスII 放射線科の診療レポート	相貌失認 失顔症	人の表情や顔が分からなくなる症状・病気
R3.10月	恋です！ ヤンキー君と白杖ガール	視覚障害	盲学校高等部生徒とヤンキー青年の恋愛劇
R3.10月	王様ランキング	聴覚障害	耳が聞こえない王子の物語（アニメ）
R4.1月	必殺仕事人2022	吃音	吃音の絵師が頼み人
R4.1月	ファイトソング	聴覚障害	主人公は聴覚腫瘍。中途失聴の女性と交流
R4.3月	しずかちゃんとパパ	聴覚障害	父親が聴覚障害のあるカメラマン

テレビドラマにおいても映画同様、例年に比べると聴覚障害の扱いが多いと思われる。背景には手話言語条例の成立に伴う手話言語の認知度の向上や、テレビ放送での手話通訳、字幕の普及など聴覚障害について目にする機会が多くなったことも関係していると考えられる。

それだけに、オリンピック開会式に手話通訳が付かなかった点は非常に悔やまれる。今後このようなことが起こらないためにもこの出来事は記憶にとどめておくべきである。

全日本ろうあ連盟の調査によると、2022年（令和4年）1月22日現在全国での手話言語条例が成立したのは31道府県、16区、308市、75町、3村の計433自治体になっている。

(3) マイノリティをテーマにした作品が増加した理由

近年マイノリティを扱った映画作品が増加した背景には、多様性を尊重するという風潮の急拡大がある。

アカデミー賞を授与するアメリカ映画芸術科学アカデミーは、受賞の条件として、以下表6にあるA～Dの条件を付け、これらの2つ以上の基準をクリアしていない作品は審査の対象とならないことを発表した。この基準は2024年から適用となる。

表6 アメリカのアカデミー賞受賞作品の必要条件

A	主役または重要な助演俳優に、少なくとも1人は、アジア人、ヒスパニック系、黒人・アフリカ系アメリカ人、ネイティブ・アメリカン、中東出身者、ハワイ先住民含む太平洋諸島出身者など、人種または民族的マイノリティーの俳優を起用しなければならない。または、二次的及びマイナーな役の少なくとも30%は、女性、人種/民族的少数派、LGBTQなどの性的マイノリティー、障がい者のうち2つのグループの俳優を起用しなければならない。
B	キャスティング・ディレクターや監督、プロデューサー、ヘアスタイリスト、メイクアップアーティストなど、リーダーシップをとる製作スタッフのポジションのうち、少なくとも2人は女性、人種/民族的少数派、LGBTQ、障がいを持つ人のいずれかである。かつ、そうしたポジションのうち少なくとも1人は、人種/民族的少数派を起用する。または、ファーストアシスタントディレクター、照明監督、スクリプターなど、少なくとも6人の技術職のスタッフが、人種または民族的マイノリティーである。製作スタッフの少なくとも30%が、女性、人種/民族的少数派、LGBTQ、障がいを持つ人である。
C	配給会社または資金調達会社が、女性、人種/民族的少数派、LGBTQ、障がいを持つ人を有給の実習生またはインターンシップとして起用する。かつ、映画の製作、配給、資金調達会社は、女性、人種/民族的少数派、LGBTQ、障がいを持つ人に人材育成や仕事の機会を提供する。
D	スタジオや映画会社でマーケティング、宣伝、流通を担うチームの幹部のうち複数人が、女性、人種/民族的少数派、LGBTQ、障がいを持つスタッフである。

本条件は、2022年（令和4年）現在、まだ受賞の必要条件となっていないが、2年後から適用となる。それを踏まえたためか、この6年間の受賞作の傾向は、表7のようにこれまでとは大きく変わってきており、多様性を意識した作品選考が行われていることが分かる。

表7 アカデミー賞最優秀作品賞

■ 2022年	「コーダ あいのうた」(ろうの家族の中で一人耳が聞こえる少女の物語)
■ 2021年	「ノマドランド」(史上2人目の女性監督)
■ 2020年	「パラサイト 半地下の家族」(外国語【韓国語】の映画として初受賞)
■ 2019年	「グリーンブック」(人種差別が強く残る1960年代のアメリカ南部が舞台)
■ 2018年	「シェイプ・オブ・ウォーター」(清掃員として働く声の出ない女性が主人公)
■ 2017年	「ムーンライト」(黒人監督による作品。ゲイの黒人男性の半生を描いている)

(4) 授業等における映画・ドラマ作品の効果的な活用

昨年度から、感染症対策のために、オンデマンド授業と対面授業を並行して行うハイブリッド型授業や教員を対象とした研修会が続いている。

オンデマンドによる授業、研修会の研修成果の是非はともかく、このような形態は当面続くものと予測される。

授業、研修会などによっては、「可能であれば対面がよいがオンデマンドになったことにより、受講の機会が保障された」といったメリットをあげる者がいる。

筆者は聴覚障害教育、手話、要約筆記という比較的受講対象者が少ない研修会での話を依頼されることが多い。これまでは、開催会場である聴覚特別支援学校の教員と近隣の難聴特別支援学級の担任だけを対象とするというように受講者をたくさん集めるという点においては効率的ではない開催の形態が多かった。知的障害教育の研修会、いじめに関する研修会などの場合には近隣に受講対象となる教員がたくさんいるが、聴覚障害については、特別支援学校が県内1校といった自治体もある。しかし、オンデマンド研修の場合、参加に当たっての移動距離は関係ないため、昨年山形市内で開催した聴覚障害教育の研修会には秋田、岩手、宮城、山形県酒田市、県内難聴特別支援学校設置校といった広域の特別支援学校、特別支援学級の関係者の受講を可能にした。

視覚障害、聴覚障害、病弱などのいわゆる稀少障害を教育する特別支援学校等の研修会においてはオンデマンド方式の導入は画期的な出来事であったと思う。

また、大学においても、オンデマンド形式の講義が、対面授業と同様の学習成果をあげることは可能であると考える。

受講者のアンケートには、「新型コロナウイルス感染症対策や移動の時間を秤にかけると今後すべての授業を対面式にする必要はないと思う。」「受講者がどちらかを選択できる方がよい。」という回答が見られた。

オンデマンド授業・研修をコロナ対策のため仕方なく行っている、絶対に対面式の方が成果が上がると考えているようでは、ICT教育、GIGAスクール構想は絵に描いた餅になりかねない。これからの教育を担っていく世代は、オンデマンド授業や研修会の方が対面式よりも効果が上がるといった点を見だし、分かる授業の工夫をすることが大切である。

筆者は、授業の導入や障害特性を簡潔に伝えるために、テレビドラマや映画の一部を見せ、解説を加えることがある。脚本に基づいて作られたドラマ等は、障害の特性がコンパクトにまとめられているものが多い。

弱視者の見え方、人工内耳装用者の聞こえ方、聴覚障害者の発音、発達障害者（感覚過敏）の教室内での雑音の聞こえ方、吃音者の話し方の特徴などは、口で説明するより、その映像を見てもらう方がイメージしやすいことがある。

障害を扱った映画等はその特徴的な箇所が予告編としてWeb上に公開されており、オンデマンド授業の場合には、予告映像のリンク先をチャットで伝え、受講者各自に見てもらおうという方法をとることが出来る。研修時間を短縮しようと思えば、事前にそれらの動画を視聴してもらい、オンライン同時双方向でのやり取りの際は視聴時間をとらずに省略という方法が可能である。

これらの方法での授業評価には、

- ・動画を見る機会が多くあり、視覚化されて分かりやすかった。
- ・飽きてきたかなと思うところでテレビ番組の編集場面や動画を見せてくれて、集中を保ったまま授業を受けることができた。
- ・聴覚障害に関するドラマやビデオが多くとても分かりやすかった。
- ・ドラマやCM、現場の動画などがたくさんあって、飽きずに講義を受けることができた。
- ・授業動画の中で、聴覚障害に関連したドラマが多く紹介されていたため、興味をもって楽しく授業内容にのめりこむことができた。
- ・動画などを用いながら聴覚障害というものは実際どういうものなのか理解することができた。
- ・資料としてLGBTが取り上げられているドラマや映画を使うのはとても良かった。

といった意見が寄せられた。

特別支援教育（障害）やLGBTなどを扱った番組等が増加していることは、多様性の理解のために有効であり、今後も積極的に活用していきたいと考える。

3. おわりに

多様性を巡っての世の中の様々な変化は、ほかにもある。三省堂の「新明解国語辞典」は令和2年11月に第8版を発売したが、ジェンダーに関する語訳を集中的に見直した。従前「口紅」は「女性の化粧品で唇に塗る紅」とあったが、新版では「化粧品などで唇に塗る紅」となり、「女性」という語が削除された。

自治体の刊行物やリーフレット等では広報物表現ガイドラインを定め、オンブズマン、サラリーマン、ビジネスマン、OB、カメラマン、キャリアウーマン、OLなどの性によって使い分けしている表現を避け、オンブズパーソン、ビジネスパーソン、OB/OG、写真家など、どちらの性別にでも対応できる表現を用い、男女共同参画社会を目指す取組が行われている。

東京ディズニーランド・シーでは、2021年（令和3年）3月より、「Ladies and Gentlemen, Boys and Girls」としていた園内放送を「Everyone」と変更し、日本航空は令和2年より、機内や空港で使用していた「Ladies and Gentlemen」のアナウンスを廃止し「All

passengers」「Everyone」など中立的な表現に変更している。

2022年（令和4年）3月ディズニーランド・パリの30周年式典では、これまでのミニーマウスの衣装に青い水玉模様のパンツスーツが加わることになった。ディズニー・スタジオは近年、スクリーン上の多様性を高めるために、映画の舞台に新たな場所を用いたり、より幅広い背景を持つキャラクターを起用するなどしている。

2020年（令和2年）、大晦日に放送された紅白歌合戦では、女性司会者が紅と白のパンツスーツを着替えて司会を務めた。2021年（令和3年）の同放送では紅組司会者、白組司会者という名称がなくなった。番組ポスターデザインもこれまでのような紅・白が区分されているものではなく、紅から白へのグラデーション（スペクトラム）の色使いとなった。

また、2000年（平成12年）頃から、国内クレヨン・色鉛筆メーカーでは「はだいろ」という名称の使用を「うすだいいい」や「パールオレンジ」と変えるようになった。2020年アメリカのジョンソン・アンド・ジョンソン社では様々な肌の色に合わせた5色のガーゼ付き絆創膏（いわゆる救急絆創膏）を発売することになった。米国内のディズニーのテーマパークが2021年（令和3年）からクリスマスイベントに黒人サンタを起用するようになった。黒人サンタの登場は66年に上る同社テーマパークの歴史で初めてであった。

我が国では皮膚の色について、蚊帳の外の出来事と捉えがちであるが、2020年（令和2年）花王が化粧品の「美白」という表現をやめることを決定した。同年、国内大手コンビニエンスストアが、が「はだいろ」と表記されたプライベートブランドの肌着22万枚を差別的な表現であったとし、自主回収することとなったように決して些細な問題ではない。

多様性の尊重と調和、ジェンダーフリー、共生社会といった言葉は、誰しもが重要なことであると声を揃えて言うものの、その本質の理解には時間がかかるというのが現実である。

結果的に今年度、多様性への配慮不足から起きた出来事や多くのドラマ等が特別支援教育やLGBTをテーマとして取り上げたことは、これらの理解・啓発という視点で見ると大きな役割を果たした。

子どもたちに対して、「多様性の尊重」の理解・推進を早期から進めていくことが大切である。学校教育に関わる者は教育活動全体を通して、多様性の尊重の先にある共生社会を目指すことをしっかりと伝えていく必要がある。

引用文献

WeThe15 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%EF%BC%83WeThe15>（最終閲覧日2022年1月5日）

白木みどり（2020）だから歌い続ける。道徳中学校2 生き方を見つめる、64-67、日本教科書。

編集委員会（2018）自分らしい多様な生き方を共に実現させるためにできること。輝け未来中学校 道徳2年、172-175、学校図書。

編集委員会 (2020) 二人で生きる. 中学校美術2・3年, 56-59, 光村図書.

ロバートキャンベル (2020) 「ここにいる」を言う意味. 伝え合う言葉中学国語2, 100-101, 教育出版.

参考資料

HUUFPOST (2020) アカデミー賞、作品賞の新基準を発表「主要な役にアジアや黒人などの俳優」「女性やLGBTQ、障がいを持つスタッフ起用」など https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5f583b55c5b62874bc158b89 (最終閲覧日2021.12.25)

福島県生活環境部 (2015) 県政広報物表現ガイドライン～気づいて、気づく男女共同参画社会～

全日本ろうあ連盟手話言語条例マップ (2022) <https://www.jfd.or.jp/sgh/joreimap> (最終閲覧日2022.1.29)